

地方で小さな会社を起して

IEAD 環境芸術学会
平成 16年 11月 13日

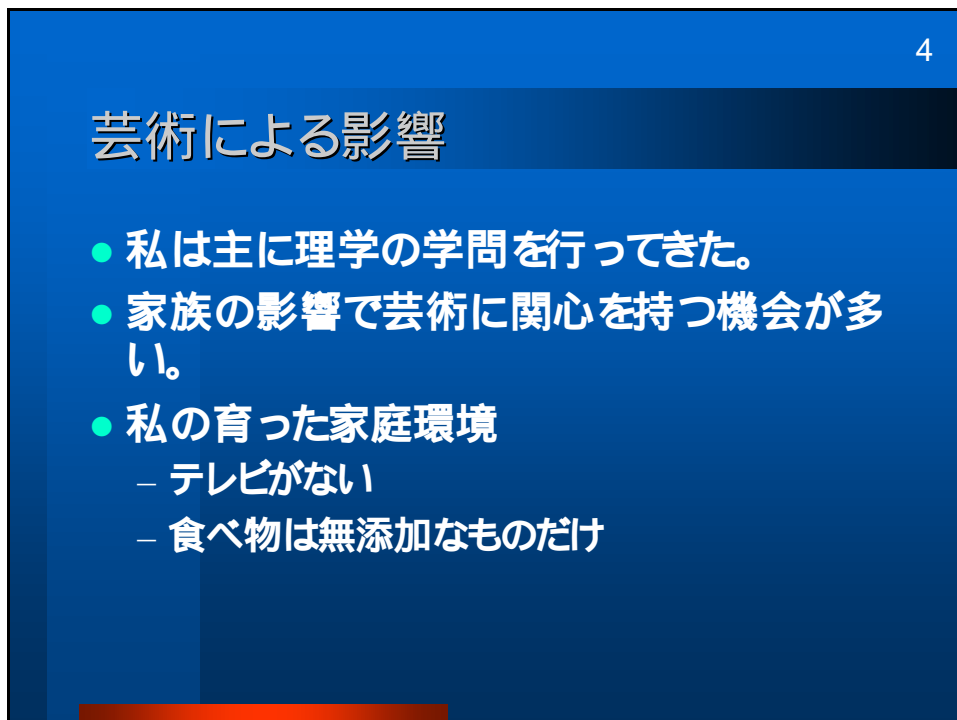
株式会社 鴨
紀井奈 栗守
Christopher R. Keener, Ph.D.



2

芸術による影響

- 大学では、理学部、コンピュータサイエンスを専攻。
- 大学院では、理学部、人類学を専攻。
- 姉が美術大学を卒業。
- 現在、私以外の家族はビーズアクセサリ、和紙を使ったボックス、自然の原料でできたせっけんなどを作製中。



5

大学と大学院での経験

- 大学 2年のとき、コンピュータを専攻。
- 興味があったテーマ
 - 技術が成功する / しないのか
 - ある技術が入ってくると人間や社会に対しどのような影響をおよぼすのか
- コンピュータ学科だけではこのような研究をすることは難しい。
- 人類学の教授に相談したところ、科学技術と文化について研究したければカリフォルニア大学がよいと勧められた。

6

大学と大学院での経験

- 大学時代は日本語を勉強。
- 大学院生時代 4, 5年東京に滞在。
- 日本の企業で仕事をする経験を持つ。
- アメリカの友人が開発したソフトウェアを日本語に翻訳して販売するプロジェクトに参加。

7

大学と大学院での経験

- 東京だけにいても日本を深く理解できない。
- 地方へ行けば、コンピュータだけでなく、幅広く技術の研究ができる。
- 研究したいテーマを日本の大学教授に説明したところ、「それは全国で一つしかない、長野県の坂城町である」との答えが返ってきた。
- 坂城町へ行くことになる。

8

坂城町の景色



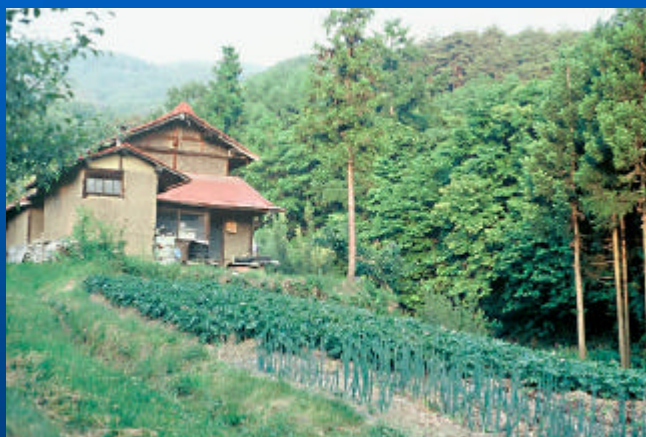
9

坂城町の景色



10

坂城町の景色



11

坂城町の景色



12

坂城町の景色



13

大学と大学院での経験

- 当時の坂城町は人口が1万6千人程、約400の中小企業があり40人に1人が会社の社長。
- ほとんどの企業が、いわゆる3K（きつい、汚い、危険）。
- 坂城町を訪れる前のイメージは、産業廃棄物が多い町。
- 実際にはまったく印象が違った。
- 工場の周りには田畑や家もあり 産業と緑豊かな自然が共存している町。

14

起業

- 坂城町の企業をまわっているうちに子供のころの起業する夢を思い出す。
- 学問の世界のみで生きていくことより、自分が研究してきたことを活かして会社を起すことを選ぶ。
- 主にIT関連事業の経営コンサルタントとして日本とアメリカの企業の橋渡し役として活動中。

15

文化の違いをどのように解決するか

- 日本とアメリカのビジネスマン同士が初めて会う場面で、日本人は必ず名刺をさしだす。
- アメリカ人は親しみをこめて握手を求める。
- 日本人は名刺交換をととても大切にする。
- アメリカ人は、いただいた名刺をよく見ることもなく胸のポケットにしまったり、本人の前で名刺にメモ書きをする人もいる。
- これをみると日本人はとても気になる。
- このようなことが起こらないためにも事前に私がアメリカのビジネスマンたちに日本での礼儀などを簡単に教えている。

16

文化の違いをどのように解決するか

- 日本人特有の控えめな性格はアメリカ人からみると自分は嫌われているのではないかと心配してしまう
- 私が間に入り、コミュニケーションがうまく行くようにサポートをする。

17

文化の違いをどのように解決するか

- アメリカ人が講演を行う際、初めにジョークを使って人の興味を引きつける。
- 日本人の話の内容は堅すぎて眠ってしまう人をたびたびみかける。
- 日本国内で講演を行う場合は皮肉をまじえて、「眠る人が出ると、この講演会は大成功だった。」と私は言う。

18

都会ではなく、坂城町を選んだ理由

- 東京で生活すると
 - 仕事がたくさんある。
 - 新しい情報や文化にいち早く接することができる。
- 地方で生活すると
 - 東京にはない大きな自然やゆっくりした時間を体感できる。
 - 創造力が豊かになり、落ち着いた環境でリラックスできる。
- 坂城町は東京に2時間程度で行ける。
 - 必要なときに東京へ行って仕事をする。
 - 最新の技術や情報にも触れることができる。

19

都会ではなく、坂城町を選んだ理由

- 現在はインターネットも普及し、電話、FAX、インターネットさえあれば、日本のどこにいても仕事をすることが可能な時代。
- 私の仕事はアメリカの企業の時間に合わせて電話連絡をしなければならない。東京で仕事をする場合、通勤時間があるとその時間がとれない。
- 現在の私の通勤手段は、自転車を利用。千曲川沿いの堤防から山や川の景色を楽しんでいる。

20

将来の希望

- 近ごろ坂城町の企業では、3Kと呼ばれる作業がどんどんなくなる。
- 新幹線や高速道路ができ、便利になっている。
- 自然が残されている環境で会社経営をしながら野菜作りにも挑戦したい。
- 博士論文を書いてから12年がたつので、新しく論文を書いてみようと思っている。
- 将来は会社を運営しながら、今まで自分が学んできた経験などを多くの人に教えたい。

私について

会社のホームページは
www.kamoinc.com

個人のホームページは
www.sakaki.com/duck/

株式会社 鴨
紀井奈 栗守
Christopher R. Keener, Ph.D.

